

脳神経内科 後期研修カリキュラム

当院の脳神経内科は、2012年11月から常勤の専門医1名による診療が開始され、2015年4月より専門医2名、2019年7月より専門医3名の体制となり、2020年2月の時点で当科において4名の後期研修医が研修を受けている。当院は脳神経内科の研修施設として以下の優れた特徴があり、積極的に受け入れを行っている。

1. 診療体制

- チーム制：専門医が各チームのチーフとなり後期研修医の診療のチェックを行う体制とし、診療の妥当性・安全性の担保に努めている。
- 内科当直：スタッフは脳神経外科とともに脳卒中当直を担当しているが、後期研修医は内科当直を担当している。このため夜間休日はそれぞれの当直からのサポートを受けられる体制になっている。
- 神経内科オンコール：24時間365日オンコール体制で神経系救急に対応している。
- 脳卒中救急：脳卒中については脳神経外科と協力して24時間365日ホットライン対応を行っており、待機している血管内治療医によりいつでも迅速に血栓回収療法が行える体制を構築している。

2. 診療環境

- 検査：放射線画像検査、生理検査、病理検査（筋生検、神経生検）などのハードは整っており、急性期病院として通常の神経疾患の診療が可能である。特にMRI、CTなどの放射線検査については夜間も含めいつでも迅速に緊急検査を行うことができる。
- 画像診断：放射線診断科常勤医が多数在籍しており迅速に画像読影が行われるが、医療読影漏れ防止システムの導入と医療安全室による重要所見の追跡により安全性が強化されている。
- リハビリ・転院：リハビリスタッフを約100名（同一法人内全体で約200名）有しており、365日体制で最新の技術を導入したリハビリを行っている。特にロボットスーツHAL®については東海地区で最初に導入しているが、保険適応疾患のみならず様々な障害の患者に対してHAL治療を試みている。また同一法人内に回復期病床も多数有しており、専属のベッドコントローラーと医療ソーシャルワーカー（MSW）のサポートのもと回復期病棟への転院もスムーズであり、急性期診療に専念できる環境が整っている。

3. 教育・学習

- チーム内教育：各チームのチーフが診療を通じて実践的な診療指導を行うと同時に、専門医試験等を念頭に学習指導を行っている。
- カンファレンス：チーフによる後期研修医の診療チェックに加え、神経内科教育カンファレンス、脳神経外科との新入院カンファレンスおよび合同抄読会、多職種合同カンファレンスを各々週一回、HALカンファレンス、放射線科脳神経外科と神経画像カンファレンスを月に一回開催している。
- 学習環境：知識の習得環境の整備にも力を入れており、神経内科図書は充実している。また、各自のパソコンから主要ジャーナルを含む2000誌以上のオンラインジャーナルが自由にダウンロード

できる。ダウンロードできない文献についてもネット経由で専門の司書に取り寄せ依頼ができ、必要な文献を速やかかつ容易に入手できる。

- 学会発表：必ず神経学会地方会の学会報告を行うよう指導されるが、希望があれば各種総会への発表を行えるよう研究指導を受けることができる。

4. 症例経験

- 豊富な症例経験：人口 50 万人を超える尾張西部医療圏に当院を含め 3 病院あるが、救急車を断らない方針の病院（救急応需率 99%以上）であるため急性期症例は豊富である。また、病診連携、広報活動にも力を入れており開業医からの紹介患者も多い。2019 年度の当科の入院患者数は 1300 件を超える見込みであり、当科の後期研修医は毎年 250 程度の入院診療実績がある。
- 幅広い神経疾患の経験：急性期から慢性期まで幅広い神経内科症例を経験することができる。
- 周辺領域の経験：日本脳血管内治療学会の研修施設でもあるので、血管内治療に関する手技の指導を受けることも可能である。内科当直の際に対応した一般内科症例の入院担当をすることで、一般内科医としての経験も積むことができる。さらに希望があれば他の内科や救急科のローテーションも適宜認めており、神経内科周辺疾患の経験と自信を高めることができる。同一法人内に認知症センターと精神科病院を有しているため、認知症疾患の診療や精神疾患のコンサルタントができる。
- ロボットスーツ HAL®：安全使用講習を受けることができ、HAL を用いた診療に関与できるようになる。

5. 研究

- データベース：脳梗塞患者の情報など、各種の診療情報をデータベース化しており、臨床研究が行いやすい環境を整えている。
- 治験・多施設共同研究：当科は CSPS.com 研究では全国一の症例を登録し研究の成功に貢献したが、認知症に関する Strawberry 研究、心原性脳塞栓症後のアブレーションに関する STABLED 研究、回復期 HAL に関する HIT-2016 試験など、数多くの多施設共同研究に参加し医学の発展に貢献している。これらの研究への協力を通して臨床研究を経験することができる。
- 大学医局：当院はいずれの大学の関連病院でもないが、当科は教育機関で研鑽を積むことを強く勧めている。希望者に対しては後期研修終了後に大学等で研鑽を積めるよう積極的に協力しており、すでに医局への入局の実績がある。